

東北新報

本紙一月三十日発行
毎週一紙発行
石城郡小野町
電話二二二二
印刷部
電話二二二二

社説

ブルジョア政策にして三
菱の番大である民政黨の
政策が、無産階級への福
音のやうな面をして十大
政策が、我が物顔してゐ
るがその吹きまくる緊縮
風が描き出す憂うつな世
相が、どんな形となり影
となつて、都會に、農村
に、工場に、街頭に現は
れるに到つたのか。
全国的に事業が手控とな
り、失業者が帝都に四萬
人うよ／＼してゐる。
石城郡だけでも約七百餘
名あると社民黨が發表し
てゐる。
農村にも小作人階級の上
に重苦しい雲が低く暗く
たれ下がつてゐる。
事務所の机にも、職場の
中にも不安な空氣があふ
れてゐる。
中流以下の各種商人もそ
ろ／＼憂うつになりつつ
あることは争はれぬこと
であらう。
然るに比較的めくまれて
ゐない司法官、警察官、
小學校教員、郵便局員など
へも恩給令の改正その他
で天引きの刃を揮はふと
してゐるのである。
民政黨が大眾を基調とす
る明るい政治をやるを稱

してゐるが、十大政策の
一つにも決してその公約
を踏まうとする覺悟をみ
ることが出来ぬ。
根本意識が、その政策の
基準がブルジョア擁護で
あることが、最後まで國
民の眼を欺くことができ
ないであらう。
失業者救済案も確立せず
して思想善導もない筈で
ある。餓えた者に與へる
ものは、節約の説教では
なくて、實に仕事であり
パンでなければならぬ。
生きやうとする人間の要
求するものはパンである
といふことを民政黨が知
らなかつた。
知つて居るが、失業者救
済を政策遂行の計算に入
れなかつたとするならば
それは、罪惡として政治
的罪惡として數ふべきで
はなからうか。
ブルジョア擁護の公債整
理で、無産階級の腹がど
うもないではないか。
三十有餘萬の失業者がそ
のブルジョア政策の政さ
くで新しい悩みを、苦
しい餓えを買いつつある
ことは、之をせし民政黨
の政さくである明るい政
治が明るい政治とは之な
るか若し、然りと民政黨
の番頭共が答へるならば

一斗の

コールドクーラー
幸ひ死傷者なし
石城郡豊間村豊間海岸の船
つなぎ場附近で三日午前八
時半頃轟然たる音響と共に
漁具乗用の一斗入れコールド
クーラーが俄然爆発し附近
で網乾そう中の漁夫數名は
驚き逃れた爲め幸ひ難を逃
れた原因は煙草の火が誤つ
て油罐に入り點火した爲め
である。

立退きに應ぜぬからと 土臺を掘り始める 鎌田の辰さん説諭願

平町鎌田町江尻辰三郎は十を迫つて来たのでこれも應
年程前に同町の小野ナホよせす其のまゝに過して来た
りナホ所有の土地十ヶ年の處去る二日ナホは辰三郎の
契約で借り受けをこへ現在住んでゐる家の土臺を掘り
の家を建築して居住して始めた爲め辰三郎の家は傾
來たが十年の契約期間が今
春満了したので辰三郎は更
に契約繼續方を交渉した
にナホは言を左右にして應
ぜず反對にナホより立退き

言葉巧に欺いて 赤井村内を横行 平署として珍らしい事件

石城郡赤井村大字赤井江尻
徳次郎(三七)方に去月十七
日午後一時頃洋服を着込み
眼鏡をかけ三十四五歳の
男がたづねて來て
内郷村に居るあなたの娘
アサの次男二郎がデフテ

大敷網の言渡し 又十四日に延期 裁判所側の都合で 結局白井側の勝利?

去る二十六日決審となつたは三日午後三時から平支部
小名濱大敷網の漁業確權認において開かれたが發身は
訴訟の判決は去月二十七日 千葉裁判長から懲役一ヶ年
平支部で言渡される筈であ
つたが昨日に延期された
處又亦来る十四日まで延期
となつたが此事件は相當復
雜して居るので平支部では
大いに慎重を期してゐるも
結局は白井側の勝利を喧傳
されてゐる

立木公賣 上小川の 來る十九日入札

平管林署では管内上小川外
三十一口の國有林立木公賣
をなすが期日は来る十九日
午前九時から同署に於て入
札執行するが申込者は入札
立木の百分の五の保證金を
前納する筈で立木種類は主
にモミ、栗、櫻、楓、檜、
クヌギ等である

千葉發身 徵役一年の判決

双葉郡富岡平字小濱千
葉發身(三二)に係る藝妓恐
認の訴訟を提起した理由司馬に交渉するや知らぬ存
はヨシが昨年三月やも暮せぬの一天張りて要領を得

未練の脅迫 女房平署に保護願

内郷村宮字宮澤居住渡邊ヒ
デ(二二)は一昨年朝鮮人日
本名高宮忠太郎(二七)と内
縁關係を結び今春一子を設
けたが高宮は至つての意け
者なため兩名は相談の上此
のほざ別れた處が高宮はヒ
デに未練あつて再三同せい
方を迫るもヒデは見込なし
として断つて來たが昨今は
ヒデに對し同せいせねば云
々などと脅迫がましい態度
に出てるので四日ヒデは
平署に説諭方を願出た

暴行を加へられて 遂に妊娠した年増 係判奮が何んぞ裁くか 成行非常に注目さる

平區支部に私生兒認知の訴へ
係判奮が何んぞ裁くか
成行非常に注目さる

立退料を 呉れる 家主から説諭願

内郷村内郷村宮本田一伊は
同字の大原伊藏並に松本義
良の兩名に對し大原には月
四圓松本には月四圓五十錢
の契約で今春長屋を賃した
處兩名は何れも三ヶ月以上
家賃を滞つたので此の程立
退を迫つた處あべこべに立
退を迫つた處あべこべに立
退を迫つた處あべこべに立

縣産婆會 十六日訓官院で 開會

十六日訓官院で
開會

部會教化講演會 石城郡教育會郡聯合青年 團並に女子青年團主催の教 化總動講演會は来る二十日 午後一時から平町聚樂館に 開催する講師明治會理事高 知尾吉吉氏で尙同會獨得の 舞踊がある

購置組合認可 石城郡入 遠野村折笠利一外二百名は 同村に有限責任購置組合を 設立するため運動中であつ たが此の程許可の指令があ つた

今夕縣社の遷葬式 縣社 子鏡倉神社では今日五日午 後五時から社頭に於て式年 遷宮祭外宮遷宮のよう拜式 を舉行すると

十一、二日は第一講堂 に於て濱三郎三等郵便局長 會議がある

購置組合認可 石城郡入 遠野村折笠利一外二百名は 同村に有限責任購置組合を 設立するため運動中であつ たが此の程許可の指令があ つた

購置組合認可 石城郡入 遠野村折笠利一外二百名は 同村に有限責任購置組合を 設立するため運動中であつ たが此の程許可の指令があ つた

購置組合認可 石城郡入 遠野村折笠利一外二百名は 同村に有限責任購置組合を 設立するため運動中であつ たが此の程許可の指令があ つた

購置組合認可 石城郡入 遠野村折笠利一外二百名は 同村に有限責任購置組合を 設立するため運動中であつ たが此の程許可の指令があ つた

交通事故防止に 社民黨平支部活躍

△……一般から期待される

社民黨衆議院支部第三回は昨年湯本町を中心と
黨務執行委員会は二日廣瀬した郷土讀本を編纂すべく
貞氏宅に於て開き借家人組長以下職員を編纂委員に
合結成の件、平町緊縮豫算擧げ材料蒐集に着手しての
の對策、縣聯合會準備會のたが近く完成する筈である
出席委員選任並に交通事該本は尋五、六年生の課
故の防止對策等について協外讀物とし國史、地理、公
議をかさねたが同支部は民理科、修身、文藝を網羅
最近頻々として起る交通事故を防止する方策として種
々研究をかさねた結果まづ左の如く四つの方法を選
ぶことになつた第一は一般通行人に對して交通事故の防
止について覺醒せしむべき宣傳をなし第二には宣傳ポ
スターを事故の發生し安い場所貼付し第三には道路
を往來する自動車その他諸車を監視し違反した場合は
直ちに警察に告發する事第四には毎日曜日入出の多い
際には支部員並に青年前衛隊が全部平町始め四倉、湯
本、植田、小名濱方面に出動して交通整理を行ふと云
ふ事に決定したが社民黨の交通事故防止の對策を要す
るに警察當局の取締が徹底しないからこれを徹底せし
むるための運動であらう見られる同黨の活躍がこれだけ
の効果を得るかは頗る注目されてゐる

入山小學校の郷土讀本 近く完成する
石城郡湯本町入山小學校で

入山小學校の郷土讀本 近く完成する
石城郡湯本町入山小學校で

堂々四日替り巨彈篇
小金井勝都賀静子主演
宿命篇。嘘。八卷
泉清子 阪東三右衛門
金子新 助演
帝キネアシヤコメデー
藤間林太郎 高津愛子 主演
明石緑郎 松枝鶴子 主演
◎白柄組征服篇◎
第二篇 衆の平内
嵐璃徳 阪東豊昇 片桐
恒男 千草香子 助演
帝キネアシヤコメデー
劍鏡 羅門光三郎 主演
小川雪子 岡庭千枝子 助演
料金普通
帝キネアシヤコメデー
東亞ノ有聲座

吹く弾く鳴らす
小松教祐先生
演奏會
日時 十月六日午後六時
場所 平町聚樂館
後援 白銀青年團

内外果實問屋
藤居商店
平町三丁目 電話五四三番

……的術藝し用應を光探の新最は影撮
すまし致製調を真寫……
門專像省
館真寫島中
……でに法光探の特獨館弊は影撮間夜
んせまりあり變と影撮間畫……

2×9—8×2×3
タ マ チ
ミ フ ミ

イスとテーブルの御用命は
本箱とツクエ
丸ほん家具店
營業所 平町三丁目 電話五三九番
製造所 平町新田前 電話七二三番

外科 外科一般 泌尿器科
醫學士 海津俊一
×光線科 木下寅一
院長 新妻由五郎
平町田町
赤心堂病院
電話七五番
入院隨應

貸切自動車の御用命は
昭和タクシーへ
高級車で乗心地の好い
昭和タクシー
平驛前
電話は 三四三番
サシミ

常磐線平町四丁目花信
附屬品卸
自動轉車商
山光堂
葬儀社
電話五五〇番
特に勉強致します

冬服何樹心
中學通學服特賣
正札堂洋服店
平驛前通り

蒲ほこ製造
折づめ類仕出し
御惣菜用
さつまいも揚げ
吉原揚げ
平町一丁目
藤寅
電話一四二番

洋食ハムと生食堂
電話四六〇

平町田町
高久病院
電話五二三番
内科、小兒科
外科、花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科
醫學士 高久 忠
新瀉醫學士 赤羽 清
藥劑士 佐竹 菊雄